

## ボストン東スクールより来日 (2/11～19)



今年も小・中学校発表会の日程にあわせて、ボストン東スクールから7名の皆様が来日されました。

学園ツアーでは各園校をまわって園児・児童・生徒たちと交流されたほか、小学校や中学校の英語の授業にもご協力いただきました。小学校の質問タイムでは「ボストン東スクールには e パルのような放課後に勉強をできる場所がありますか？」や「日本語の授業はありますか？」と自分たちで考えて質問できたということです。

学園で行われた両校の情報交換（ビジネスミーティング）では、ボストンより生徒数が過去最高となったことや現在早期教育や就労の機会の拡大が大きな課題で重点的に取り組んでいることが報告されました。アメリカでは法定の企業の知的障害者の雇用義務制度がなく、企業の善意に任されているそうです。30年以上前は日本も今のアメリカと同じで、高等専修学校の教職員は就労先の発掘に苦労してきました。現在では就労を希望する卒業生全員が福祉的な就労を含め就職を果たしています。これは、日本において障害者雇用についての法整備が画期的に進展したことが大きく影響していると説明されました。

日本側からは、第五友愛寮の開設準備が進んでいること、55周年の節目に「自閉症児教育マニュアル」をまとめて教職員がこの教育を承継できるように準備を整えたことが報告されました。あわせて、昨年春来校したカリフォルニア州立大学准教授Dr. Maulが「自閉症児教育の比較研究の立場から世界をまわり多くの学校を訪問してきたが、東学園の子どもたちの表情には他に見られぬいきいきとした輝きがある」と驚かれ、ボストン東スクールを見学しても同じ感想をもらすことだろうと伝えて懇談を終えました。

\*こちらから [武蔵野東学園ホームページ](#) へ

